

個人も企業も注目すべきは環境問題

提出 2002.1.15. (Tue.)

ID 番号 : SL20702

学校名学年 : 山脇学園高等学校 1 年

メンバー : 小野島 茉莉 (チームリーダー)

小黒 佳奈 ・ 武隈 有加 ・ 松山 絵美 以上 4 名

指導教諭 : 白井 敦子

500 万円の購入銘柄一覧

本田技研工業 50 万円
トヨタ自動車 50 万円
鹿島建設 30 万円
ダイセキ 50 万円
リコー 30 万円
ソニー 30 万円
キャノン 30 万円
石川島播磨重工業 50 万円
日本鋼管 (NKK) 30 万円
サニックス 10 万円
環境管理センター 10 万円
麒麟麦酒 10 万円
伊藤園 40 万円
三菱マテリアル 40 万円
麒麟ビバレッジ 10 万円

1. 自主テーマによるポートフォリオ学習において、なぜその投資テーマを決めたのか？なぜその銘柄を選んだのか。

テーマ設定の理由

このテーマを決めるには正直とても時間がかかった。色々検討して出た候補の中で「ゴミ問題」という題材は私たちにとっては身近で、考えやすいものだった。他の候補の話をして、途中で会話が途切れてしまったが、ゴミ問題の事となると「あの会社は？」「ここでこんな事をしてるって TV で言っていた」というように話せたから不思議だった。それはおそらく、ゴミは私達も毎日排出していて、処理の大変さがなんとなく実感できるし、また考えてみれば「ゴミ」が「ゴミ」になる以前はどれも生活にかかせないものだったわけで、「ゴミ」のない生活はありえないばかりか、産業廃棄物については生産の証でもあり、現代のような生活を保つ為には「ゴミ問題」は避けては通れないという事を本能的に感じているからだと思う。

ゴミはいわば生産の対極にあるが、これを利用することによって資源循環型社会が形成できれば、実はゴミは生産の原動力にもなりうる事ができる。

私たちは、「ゴミ問題」に取り組んでいる会社はきっと、生産性を高めながら地球を守るという長期的視野を見据えているので、これからの社会のなかで生き残っていくだろうと考えた。

また、みんなが共生できる地球をめざす会社は、真の意味でグローバルな会社と言えるのではないかと考えた。環境を考える上で大切なのは、まずは一人一人の自覚と努力、そして、次に企業の姿勢だ。私たちの作業はまず、そのような姿勢を持った企業のリストアップから始まった。

選んだ企業

企業選定においては、始めに日経の切りぬき、ヤフー・ファイナンスのチェックなどを行った。その中から、さらに企業のホームページを調べ、それぞれ下記の理由から選定した。

企業の活動（環境問題への取り組み）

ホンダ： 排出ガスのクリーン化とリサイクル性の向上。

廃棄物の埋め立て処分ゼロ化、部品回収及び再生再利用の拡大。

トヨタ： ハイブリッドシステム搭載の環境対応車や自動車に搭載しているリサイクル部分を紹介。

鹿島建設： ゴミなどの処理場、リサイクルセンターの設置。

ダイセキ： 産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の資源リサイクル、環境浄化対策。

キリンビール： 廃棄物ゼロ運動。缶・ピンのリサイクル。

伊藤園： ダイオキシン排出防止。産業廃棄物の 100%資源化。

リコー： 省エネ型複写機や一度印字した用紙から画像を消去する技術の開発。

ソニー： グリーン化で賞を受賞している。

キヤノン： 2001 年に行われたエコプロダクツ 2001 年に出展。

地球環境に技術で挑むキヤノン、をテーマに 21C 環境配慮型製品をハイライトし、環境への取り組みを紹介。

石川島播磨重工業： ゴミ焼却炉やリサイクル装置の製作。

日本鋼管： ゴミ処理設備などの施設拡充。

サニックス： 産業廃棄物の処理、リサイクル。プラスチック資源の回収。

三菱マテリアル： 事業設備に内在する廃棄物の再資源化機能と最新の処理技術および環境負荷低減のための各種製品開発。

企業選定までのプロセス

まず YAHOO！で環境対策に取り組んでいる会社を調べようとゴミゼロと検索したところ「クリエイト日報」という HP があった。そこにはゴミゼロ宣言した企業がたくさん載

っており、その中から将来見込みのありそうな企業を『会社四季報』で絞り込んで選んだ。それが、リコー、ホンダ、麒麟麦酒、トヨタ、ソニー、キヤノンの企業である。

そして次に私たちはウイスティック 2001 という産業廃棄物、再資源化展が開かれている事を知り、また HP で調べてみた。そこで出展していたのは石川島播磨、ソニー、鹿島建設の企業であった。その中でも石川島播磨は新技術部門に選ばれていて、また始めに選んだ（ゴミゼロ宣言をしている）トヨタと共にタイに合併会社を設立したこともあり、これから両社が環境問題のことで協力してほしいと思い注目してみることにした。鹿島建設は学校に近いという事もあり選んだ。ここではもう一つ新キャタピラー三菱という企業も候補に上がっていたが、購入する時に見つからず、同じ三菱つながりでやはり環境のことに取り組んでいる三菱マテリアルを選んだ。

また、トヨタとホンダは同じ自動車工業企業として、リコーとソニーとキヤノンもカメラなど製品の関連点から環境対策の面での比較をしてみたいと思ったのが、選定の理由にもなった。

ほかにも同じ飲料関係の会社を買い一緒に比較してみたいと思い、そこで麒麟麦酒とキンビバレッジとポピュラーな伊藤園を選んでみた。伊藤園を選んだ理由でもう一つ飲料で使われているペットボトルやカンなどを生産している企業のリサイクルはどうなっているのかということに着目してみた。

今まであげた企業は環境に積極的に取り組んでいるが、それは本来の業務ではないので、環境ではないことの状況でも株が上下してしまう。そこで、直接ゴミなどの処理に関わっている企業も選ぶべきだと思い、ダイセキ、日本鋼管（NKK）、サニックス、環境管理センターを選ぶことにした。このとき、ゴミ処理の仕事をしている企業のなかで株式会社であるのは少なく、見つけるのが困難であった。

株購入後の経過観察（日本経済新聞より）

ちょうど、企業選定～購入後の 12 月 3 日付けの新聞に、製造業の環境経営度ランキング上位 30 社が掲載された。これを見ると、実に、私たちが選んだ会社が 5 社も入っていて、この選定に間違いはなかったと、自信を持った。

ちなみに リコー 2 位、ソニー 3 位、トヨタ自動車 4 位、キヤノン 6 位、ホンダ 29 位とどれも好成績だった。またこのときの記事によれば、リコーやソニーは省エネや廃棄物のリサイクルなどの達成状況や、環境配慮型製品の開発状況などを業績給に反映させているそうである。

さらに、12 月 14 日にはエコプロダクツ 2001 の記念シンポジウムが行われ、基調報告を行った山本良一東大教授が「環境商品を社会に流通させる為には企業のイニシアチブが必要」と語ったと書いてあった。

そして、このエコプロダクツ 2001 に出展した企業名を見たところ、私たちが選定した企業が 5 社（キヤノン、トヨタ、ソニー、リコー、三菱マテリアル）出展していた。

そして、12 月 18 日付けの新聞には「世界でもっとも尊敬される企業」が発表されており、ここにはソニーとトヨタ自動車がそれぞれ 4 位と 6 位にあがっていた。

また、12月20日付けの9月中間決算ランキングでは、トヨタ（1位）、ホンダ（4位）、リコー（25位）と、ここでも、私たちの選定した企業が3社も選ばれた。

選定理由にも書いたが、やはり、環境問題に正面から取り組んでいる会社は世界でも認められ、また業績的にも素晴らしい、という事が証明されたようで、上記の記事を見つけたときは、とても嬉しかった。

株価について短期的にあがった、さがった、と一喜一憂する事もないと思うが、株主のためにも、地球のためにも企業は環境問題に取り組むべきだ、と感じた。

2. STOCK リーグを通じて学んだこと

今回のこのSTOCK リーグで株の売買をインターネットで体験してみて、強く感じたことは「株」と「社会」との深い関わりだった。社会が私達に影響をもたらす形は様々であり、事件（出来事）、流行、情報（ニュースなど）など、即座に私達のもとに発信されてくる。こういった情報をもとに私達は行動をおこし、そしてその一つに「株」がある。自分の興味のある行動を行っている企業を探し、お金を投資する。さらに、その企業の利益を見て株を売買する。こういった中で大きく影響してくるのが、「社会」の動きである。テロ事件、狂牛病を例にあげてみると、テロ事件で大きな打撃を受けたのは航空会社である。株価の急激な下がり方から、飛行機墜落という出来事が航空会社の信頼を奪ったことがみてとれる。同じように狂牛病問題でも、牛肉の安全性が疑われ、その結果が食料品関連会社の株に大きな変動をもたらしている。

この2つの出来事を見てもわかるように、「社会」の動きや流れというのは「株」の変動によく表れているといえる。逆に言ってしまうと、「株」の動きを見れば、その背景に自分達の知らない今の「社会」の姿が映し出されてくる。

こうして私達は以前まで気にとめなかった新聞の記事などを注意深くチェックするようになり、「株」を通してさらに世界に目を向ける機会が増えた。

今回私達は、企業と環境という視点から、株というものを考えてきた。この活動を通じて、さまざまな大人との関わりあいももつことができた。そのときに感じたのは、高校生の立場で考えた私達の視点と、企業の人間との視点の相違であった。

もしかしたら、「株」を考える以前に企業と言う組織は今以上に環境あるいは人類の抱える社会問題に取り組んでいくべきなのではないだろうか、と私達は考えた。現在様々な組織の間でそのような社会問題に対する啓発は行なわれている。しかし、今この世の中で最も規模が大きく最も経済力を持ち、社会に対して権力を所持している組織は何を隠そう企業ではないだろうか？

また実際にインターネットのHP上で株式の経過をみることによって学んだこと感じたこともある。

たとえばバーチャルの株式投資とはいえ、株の変動の行方を自分達になりに見定めた銘柄の株価が上がった時や、新聞などで評価されたのを見たときはとても嬉しくおもしろ、そして楽しく活動できた。順位は1108人いる中で現時点では116位、最高では88位になりました。上位をキープできたことは信じられないけれどとても嬉しいことだった。ここまで

上がったのは環境問題が注目されている中、環境対策に取り組んでいる企業が増えているところに視点を回したことで、そして企業の選び方も大企業や選んだ時点で株価が良いところばかりでなく、もうすこし広く考えて、将来に見込みがもてそうなところや、小企業などもいくつか選んだところがよかったのかと思った。また、順位を確かめることで、自分達の考え方の方向性を再確認するきっかけになったと思う。

そしてもうひとつ全体的に感じたのは株の動きは社会のさまざまな出来事に影響され、また株式は社会成長には不可欠な存在であることがわかった。最後に最初に持っていた株式投資のイメージは堅苦しいものでしたが、実際に経験してみたらとても自分達の生活に密着していることがわかった。100 万円のポートフォリオの銘柄を選ぶ際もこれからクリスマスの時期だからおもちゃ会社の株が上がりそうだ、とか、CM でこんな有名な人が出ているから株も期待できる、というように、ちょっと違った視点から株をみることもできました。そして、社会に出る前にこのような場に参加することができて、将来必ず何かに役立つと思うので、本当によかったと思う。